

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	大町町立小中一貫校大町ひじり学園
1 前年度 評価結果の概要	・今年度は、後期課程の新学習指導要領の完全実施となる。さらなる学力向上を目指し、9年間を見通した授業改善に取り組んでいきたい。 ・教職員の働き方改革については、少しずつ進んでいる。次年度も継続して働き方改革を進めていきたい。
2 学校教育目標	「大磨 智誠」 ～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～ ↓ 「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ～夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～
3 本年度の重点目標	①主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫を図る。 ②キャリア教育の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・共通実践についての共通理解の場をもち、意識化を図る ・毎回、校内研究の冒頭で「授業づくりのステップ1・2・3 セルフチェック」を行い、授業づくりへの意識向上と授業のレベルアップを目指す。研究授業後の参観等でもチェックシートを活用する。	B	・年度初めに共通実践について共通理解した。職員へのアンケートでは、87%の職員が書く活動が実践できていると回答した一方、対話活動の実践ができていると回答した職員は75%だった。今後、対話活動の実践について研修を深める機会を設けていく。 ・「授業づくりの1・2・3」を模範授業で活用した。全職員によるセルフチェックを1回実施した。今後もセルフチェックの機会を設けて、授業づくりへの意識向上につなげていきたい。	B	・学力向上対策のマイプランを達成した職員は81%だった。 ・県の学習状況調査の結果を全職員で分析し、共通理解と共通実践の確認をした。 ・授業作りのステップ123を活用(セルフチェックや授業研究会で使用)することで、西部型授業作りの意識は高まってきている。さらなる質の向上に向かって努力したい。	B	・先生方の授業方向上と運動していると思う。
		○「よい姿勢で座り、発言者の方を向いて話を聞くことができた」と肯定的に回答している児童生徒80%以上	・校内研究の時間を活用した学習規律内容の共通理解の場の設定 ・「学習のルール」に準じた学習規律の指導	B	・4月に「学習ルール」について全職員で共通理解した。 ・児童生徒に夏休み前実施したアンケートでは肯定的な回答が70%程度で目標の80%に達していなかった。各学級で掲示物等を活用しながら再度指導していくことを確認した。	B	・アンケートで肯定的な答えをした児童生徒の割合は、71.4%で、目標の80%は達成できなかった。学級全体での定期的な指導に加え、個別にできていない点をこまめに指導していくことで改善していきたい。	B	・コロナ禍で、学校に行く機会が減り、学校の様子がよく分からないことが残念である。
		○「宿題や課題、あすなるワークを忘れていない」と肯定的に回答している児童生徒90%以上	・家庭学習の充実に関する授業の実施 ・「学習のルール」に準じた家庭学習時間の指導	B	・4月に家庭学習の進め方について共通理解をはかり、家庭にもプリント配布をした。 ・忘れず提出できていると、アンケートで肯定的な回答をした児童生徒は80%程度で、目標の90%に達していなかった。特定の子が出せていない実態があるため、その子に応じた働きかけをし、できていない児童生徒の割合を減らしていくよう指導していく。	B	・アンケートで肯定的に答えた児童生徒の割合は、79.4%で、目標の90%に達していなかった。特定の児童生徒が提出できていない実態も変わっていない。個別指導の継続と課題(宿題)について、内容や量などについて検討し、共通理解を図る必要がある。	B	・通常の様子は特に問題ないようである。
		○「自分の考えをもち書くことができた」と肯定的に回答している児童生徒75%以上	・西部型授業、大町型授業実践における自分の考えを書く活動の設定	A	・4月の大町型授業についての共通理解の中で、一人調べや振り返りで自分の考えを書く活動を設定することを確認した。 ・児童生徒のアンケートで肯定的な回答をした児童生徒85%程度で目標の75%を達成できていた。自分の考えを何と書こうとしている姿が見られる。今後、内容の充実を図っていききたい。	A	・児童生徒のアンケートでは、自分の考えが書けたと肯定的に回答した児童生徒の割合は、83%で、目標の75%は達成できた。今後、Teamsなど学習用パソコンを活用し、意見交流の機会を増やすことで、書く内容の充実に向けていきたい。	B	・10月の学習発表会に参加させてもらった。大変素晴らしい内容だった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命の大切さや相手の立場を考慮して思いやることができるようになったと言える児童生徒80%以上	・生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ・本物に触れる体験活動の取組 ・平和集会、人権集会の取組	B	・児童生徒の実態に応じた道徳授業の実践を通して、友達や周りの人々に対する思いやりの心が身に付きつつある。コロナ禍ということもあり、本物に触れる体験活動ができなかったため、後期は人権週間等の取り組みを通じて、更に児童生徒の心を耕していく。	A	・アンケートで、命や思いやりの大切さを考えることができて肯定的に答えた児童生徒が93%で目標を達成することができた。台風災害でのボランティア活動に参加する生徒も見られ、他人を思いやる気持ちが育ってきている。	B	・思いやりの心を育てる教育を大切にしていきたい。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの把握に資する学校全体の取組を月1回以上実施。連絡会を週1回実施する中に、いじめや問題行動にかかわる事案を報告する時間を設定する。	B	・Q-Uの実施、心のアンケート(毎月)教育相談部会(月末火曜日6時間目)小中合同生徒指導・教育相談連絡会(年3回)	B	・学校全体の取り組みについては、定期的に行うことができている。定期的な取り組みによっていじめや問題行動の周知ができてきている。大雨洪水被害やコロナ禍からくる差別やいじめの問題も起こりうる可能性があるため、これからも取り組みを続け、児童生徒の心の理解に努める。	A	・心のアンケートは小中ともに毎月実施し、それを基にいじめ事案の早期発見及び対応につなげることができた。中学部のアンケートについては、本校の実態に応じて内容を精査し、より実態が見やすいアンケートへと変更し実施することができた。生徒指導・教育相談連絡会は、毎週の連絡会で児童生徒の実態を共有する時間を設けたことで、細やかな実態把握ができていく。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を、小学生95%、中学生100%を目指す。	・学級活動等において食育指導を推進し、朝食の意義や食事の大切さについて児童生徒だけでなく、必要に応じて家庭に協力を呼びかける。	B	・小中共に委員会活動で朝食の大切さやバランスのとれた食事について啓発するポスターを作成し、児童生徒に呼びかけを行った。 ・給食時間に学級で食育指導を毎日行っている。 ・保護者への啓発が課題。	B	・「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は、小学生97%、中学生97%であった。 ・委員会活動で食に関する動画を制作し、全校児童で視聴して食の大切さを考えることができた。 ・保健便り、給食便り、学級通信等で保護者への啓発を行った。	B	・体育の授業での十分な運動量の確保をお願いしたい。
		○防災教育・安全教育の推進	○学校内外での安全意識を高める。年間を通して、交通事故を0にする。 ○災害時において取るべき行動について正しく理解している児童生徒の割合を90%以上にする。	B	・登校指導・各種訓練・危険箇所の点検見回りを行い、その結果を集会等で指導に生かす。 ・防災についての講話や体験を行い主体的に行動する態度や支援者としての育成を図る。	B	・不審者対応訓練、引き渡し訓練、交通安全教室等、全校や学年単位で訓練を行い、防災意識を高めることができた。 ・地震火災訓練や防災教室など、今後とも継続的に防災教育・安全教育を行っていく。	A	・年間を通して交通事故は起きていない。 ・災害時において取るべき行動について理解している児童生徒の割合は91%であった。 ・各種訓練を計画・実施し、防災意識を高めることができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日午後は職員数時間として運用 ・定時退勤日(水・金)の設定 ・長期休業中の学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	・水曜日の午後の時間については、会議や研修をはじめ、教材研究、授業準備等に活用できている。 ・具体的方策により、超過勤務時間は改善の方向に向かっていくもの。業務改善や働き方改革に向けての意識改革が必要である。	A	・4月から1月までの時間外在職等時間の平均は、教育委員会規則に掲げる上限を遵守(=4時間)することができた。特定の職員の時間外在職時間が長いことが課題である。 ・水曜日午後の授業カットにより、時間を有効に使うことができていく。今後は業務の効率化に重点を置いていきたい。	B	・遅くまで学校の電気がついている。先生方の勤務が心配である。 ・担任の先生方の顔を知らない保護者が多い。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	学校関係者評価	
○キャリア教育の推進	◎生徒が夢や誇りをもち、社会をたくましく生き抜くための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした6年生児童、9年生生徒85%以上	・学期の始めや終わり、行事や活動後など計画的にキャリアパスポートに記述させる。	B	・5月に実施した全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした6年生は92.0%、9年生は66.6%であった。 ・キャリア視点を意識しながら行事や活動に取り組ませ、キャリアパスポートにふりかえりを記述させた。	B	・学校評価アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした6年生は79%、9年生は72%であった。目標を達成することはできなかったが、全国の結果より上回ることはできている。 ・2分の1成人式の実施。	B	・町教委が示すキャリア教育の機軸を忘れないようにしてほしい。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									

5 総合評価・次年度への展望	・学力向上については、研究主任を中心に、「大町型授業」について共通理解をはかりながら、授業づくりを進めることができた。来年度は、さらに小中連携を深め、主体的な学習態度を育成していくような研究を進めていきたい。学習用パソコンの活用方法についても研究を推進していく。 ・コロナ禍において、特に体験的な行事については大幅に縮小、削減され、児童生徒の情操教育に影響があったことは否めないが、コロナ禍だからこそ進められた、学校行事の精選や自宅での学習用パソコンの活用などは成果としてあげられる。 ・教職員の働き方改革については、年々改善されてきているが、まだ、ライフワークバランスについての意識が低い教職員が見られる。負担軽減を減らすようなシステムの構築と研修等による意識の改革を行ってほしい。
----------------	--